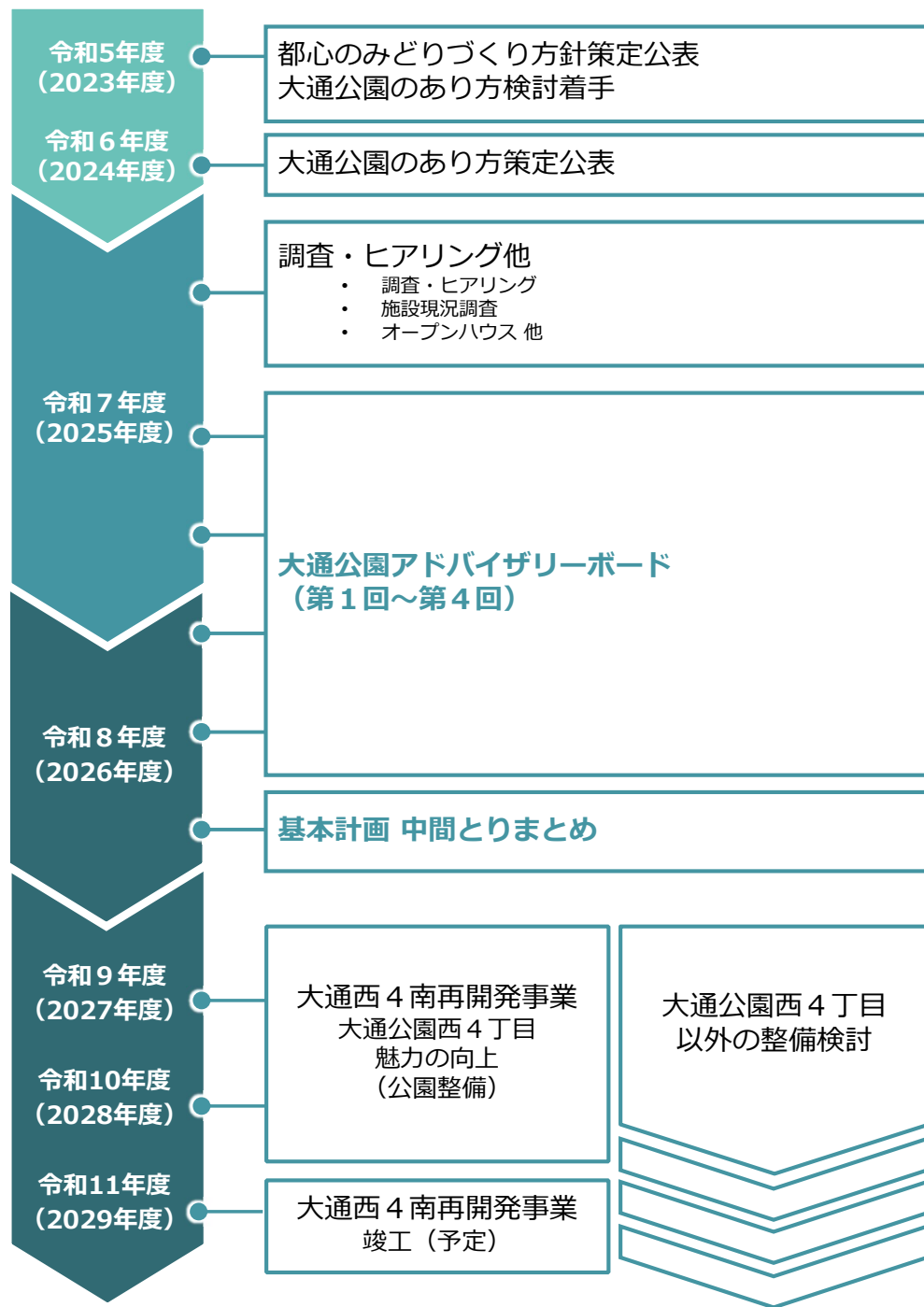


前回の議論の振り返りと今回の議論

令和8年9月25日

札幌市 建設局 みどりの推進部

(1) これまでの検討状況と今後の検討プロセス



大通公園アドバイザーボード 議論項目・進め方

令和7年11月20日

第1回 アドバイザリーボード

< 主な報告事項 >

- ・ 樹木調査、簡易診断、施設現況調査 (5月～8月)
- ・ オープンハウス (9月)

< 主な議題 >

- ・ 検討の方向性について
- ・ 今後まとめていくべき各種計画とその方向性について
- ・ 本アドバイザーボードの進め方について

令和8年1月16日

第2回 アドバイザリーボード

< 主な報告事項 >

- ・ 第1回アドバイザーボードにおける意見等について

< 主な議題 >

- ・ 基本計画の考え方について
- ・ 整備および取組のイメージについて

令和8年6月29日

第3回 アドバイザリーボード

< 主な議題 >

- ・ 基本計画 中間とりまとめ (案) について
- ・ 西4丁目における取組と整備イメージについて

第4回 報告・議論項目

令和8年9月25日
(本日)

第4回 アドバイザリーボード

< 主な議題 >

- ・ 基本計画 中間とりまとめ (案) について
- ・ 西4丁目における取組と整備イメージについて

令和8年10月以降

- ・ オープンハウス
- ・ 基本計画 中間とりまとめの公表

（２）第３回アドバイザリーボードにおける主な意見

テーマ	ご意見・ご質問等	事務局回答と今後の方向性	資料 2 における 対応するページ
全体について	- 取組の時間軸に幅があるようだが、概ねどれくらいの期間を想定しているのか把握できると意見がしやすい - 大きな計画がどのような時間軸で進んでいくか見えないが、昨今の建築費高騰などの状況下では見通しをつけるのは難しいことも理解する。そのような中でも、大きなお金をかけずに始められる<u>ソフト事業（周辺まちづくりとの連携等）</u>から着手することはできるのではないか	- 施設が更新時期を迎えているものについて、安全・安心に利用できるようにという観点から優先的に着手していきたい - また、施設整備における民間の可能性や条件について情報を収集・整理し、調べる時間を確保した上で事業計画へ反映させていく。 - 周辺まちづくりや道路空間との連携やソフト事業に関しては、時間軸がつかみきれない。まちづくりについては、関係部局と連携を協議しながら進める。ソフト面に関しては、施設の更新について検討を進め具現化していきながら、取組みを充実をさせていきたい。	資料 2 P12,13
	- 直ちに着手できることと、現実的な状況も踏まえ調整しながら進めるやり方が必要である。その中においては、状況が変わっても「<u>大通公園として実現すべき・維持すべき内容</u>」をしっかりと基本計画に盛り込むことが最も大切である - 基本計画は、今後の維持管理や活動をする際の「仕様（指針）」となる。自由度を持たせるところと、絶対を守るべきところのメリハリをつけて表現してほしい - 先行していくつか取組をしてみたり、部分的に試行してみることがあるため、大通公園で大切にすることは守りながらも、柔軟に対応により基本計画の熟度をより高めていくという考え方でやっていければ良いのではないかと		
	計画の成功を測るための<u>定量的・定性的な評価指標</u>（文化の発信地になる、観光客がまず訪れる場所になる等）を持つことも重要	- にぎわいの創出のみならず、憩いの空間や都心の緑地として人々が集える場という、委員からも賛同を得ている価値の充実を目指したい - 大通公園の良さを引き継ぎつつ、それをどのように具体化し、形にしていけるかを取りまとめる方向で検討を進める	資料 2 P12
	何を残して何を更新するのかという公園の整備内容に関する議論と、民間活力（Park-PFI等）の導入による整備の議論を混同しないようにしてほしい。	Park-PFIだけを積極的に進めるという趣旨ではなく、老朽化した施設を更新していく際の財源をどうするかを検討しないといけないという点であり、誤解を招く記載については修正する	資料 2 P11,12
	まちづくりとの連携については、<u>歩きたくなる（ウォカブル）</u>まちの形成に向けて、自転車を含む交通ネットワークの視点からも検討を続けてほしい	本市が目指す新たな都市空間像として『Well-Moving City SAPPORO2045ビジョン』において、大通公園周辺が都心のリーディングプロジェクトに位置付けられていることを踏まえて、街区・道路路・公園の一体感がある、居心地が良く歩きたくなる空間の形成に向け、関連する部局と連携していく。	資料 2 P12
空間計画 施設計画 について	寒冷地特有の課題を考慮した安全性の確保という視点を大事にして、施設計画や空間計画について検討してほしい	冬の安全対策についての視点を持ちながら、各計画について検討していく	資料 2 P9
管理運営 計画に ついて	Park-PFI等による整備や運営を手掛かりにするのではなく、まずは既存のイベントの占用料等の収入を維持管理等に直接還元する仕組みなど、<u>現在の管理運営について見直しできることはないか</u>検討すべきではないか		
	経済的な持続性を保つためには、民間企業にも協力してもらう必要があるが、大通公園一帯としてコントロールすることも求められる。規制する時だけでなく、民間から望ましい協力を引き出す時にも、市として「何を重視して、<u>大通公園をどういう場所にしたいか</u>」というビジョンを示すことが、<u>官民連携をするためのプラットフォーム（基盤）</u>になる	施設の配置計画等を具体的に検討した上で、民間事業者の協力が得られるか調査し、その先に管理運営が持続的になるような仕組みを構築する順で考えていきたい	資料 2 P12
環境計画 について	<u>エコロジカルネットワークと各個別計画（空間計画や植栽計画等）の連動が見えない</u>。図上で周辺の緑地との繋がりをアピールするとともに、郷土樹種や自生種を入れるなど生物多様性の観点を入れるべき。クールスポットの創出も水景施設と組み合わせることで、より効果的になるのではないかと - 周辺の緑地との位置関係を整理しておくべき。<u>グリーンインフラやエコロジカルネットワークの形成を図ることに、重点を置くべき丁目がどこなのかも見えてくるだろう</u>。多層構造や郷土樹種を入れるなど、力を入れるべき場所を明確にしておいたほうが良い	みどりのネットワークやクールスポット等の表現を工夫し、各計画に落とし込めるよう、より分かりやすく修正する	資料 2 P7,10

テーマ	ご意見・ご質問等	事務局回答と今後の方向性	資料 2・3 における対応するページ
植栽計画について	• どの木を切るのかは判断が難しいが、剪定や伐採する際には、危険木の調査だけでなく、樹木の「質」の評価がされないと、実際にどのように対応するのかが見えてこない。特に計画が進む 4 丁目について、葉があるうちに質の評価をするべきである。ニセアカシアやシンジュ等が成長し過ぎて、暗さの原因になっていると思われる • 植栽の調整は、大規模な整備の時でないと難しい。先行する西4丁目の計画で考え方を示し、実際にやってみて、他の丁目の植栽計画にも反映させていくような検討をしてみてもどうか	• 西 4 丁目における樹木の質の評価については早急に検討を進める	資料 2 P7
	• 西3～5、8丁目は、雪まつの雪像等の荷重がかかる場所であるが、基盤には火山レキだけでなく山砂を混ぜることで、芝生の根が十分に生育できるように対策をした経緯がある。火山レキだけでは荷重に耐えられず、レキが壊れ固結し、芝生の根の伸長が期待できない。雪像との関係を考慮した芝生の基盤にするべき	• 芝床についても各丁目の状況を整理しており、過去の経緯や雪像との関係、現状の芝床の土壌分析や芝生の生育状況を踏まえて、実施設計に向けて検討を進める	資料 2 P7
西4丁目について	• 帯状の花壇が現況の 3 倍ほどになっていて維持管理費用の増加が想定されるが、継続できるのか懸念する。事業者等が継続して維持管理してくれる前提だったりするのか。花壇維持にかけられる費用が減る中で、維持する仕組みも並行して検討しないといけないのではないか	• 花壇は帯状に集約することで、大通公園の隣り合う公園の街区との空間的連続性を持たせることができないかと考えている。維持管理費を現状程度に抑えながら、空間の一体性を持たせることが可能なのかを含め、花壇の大きさや配置などの調整を続ける	資料3 P2
	• 南側の樹林下は日陰となるため、地被類などを入れても維持できるか疑問であり、また人の立入りを制限する仕切り等がなければ踏み荒らされて裸地化してしまうのではないか	• 地被類の保護（立ち入り対策等）についてもは、実施設計の中で具体的に検討する	資料3 P4
	• ライラックがある札幌の情景を詠った吉井勇の歌碑が、現在ライラックが育ちにくい南側の日陰にあるため、ライラックの生育環境が良い北側へ移設すべきである	• 歌碑は北側へ移設する予定である	資料3 P2
	• 可動式ベンチを設置する場合、風で飛ばないよう工夫が必要。また、真夏は芝生や水盤周辺の直射日光による暑さが厳しいため、子供の遊びを含め、木陰等での具体的な過ごし方のイメージを持つ必要がある • 日当たりの良い芝生は、本州では夏場かなり厳しく人がいない。大通公園の西4丁目の水景施設についても、南側のビルによる日陰等も含めてイメージして考えると良いのではないか。 • 札幌は、本州と比べると夏も清涼であるため、緑陰に限らず、涼しさを感じられるような工夫を割り切って考えるしかない	• 噴水周囲の可動式ベンチは利用者が動かすものではなく、下部を固定するなど安全に配慮したものを想定している • 過ごし方や夏の暑さ対策のイメージについても引き続き検討を進める	資料3 P3
	• 2m歩道や車線など、公園敷地内にとどまらず開発事業者等と協力して周辺空間との一体的な活用や、実験的な取組（トライアル）に挑戦してほしい	• 今回の工事範囲は基本的に公園の敷地内を中心としているが、2m歩道を含めた周辺との一体的利用については、まちづくりの動きに合わせて関係部局と協議を続けている	資料3 P1